

## 東部日本語ボランティアネットワーク 第17回定例会議事録

【日時】平成27年3月21日（土）（曇り）14:00～16:00【場所】三島本町タワー4F  
【参加者】13名（熱海）中村、（のびっこ）石井、渡辺、（伊豆の国）久木野、（FILS）小川、（たぶ  
んかどんぐり）山田、（富士宮）吉野、（沼津）斉藤、相田、虎谷、（ふじのくに）高澤、（SIR）古橋、（シ  
ルクロ）植月（以上敬称略）

### ◎2014年度SIR主催研修会の紹介

1. 外国人のための地域日本語教室
  - ・今年で5年目。講習料は18時間分をSIRが持っている。
  - ・実習生に企業内で日本語を教えている。
  - ・企業側には、日本語指導の重要性と必要性、地域との関わりを持つ意義を伝えている。
  - ・意識変容が見られる企業もあるが、旧態依然の企業もある。
2. 静岡県教育指導者研修会（県教委と合同開催）
  - ・袋井、磐田、富士、沼津で開催。
  - ・市教委に案内を出し、研修を希望する市で実施している。
3. 2014年秋 地域日本語教育コーディネーター研修会
  - ・9/5、9/27、10/4、10/18、12/13に実施。参加者14名。
  - ・研修の目的は大きく2つ。1つ目は、県内には70地域に130の日本語教室があるので、お互いを知る機会にしてほしい。2つ目は、時代の変化が激しい中で特にベテランの方には、日本語教室の社会的役割も変化していることを知ってほしい（来日する外国人の層が以前とは異なる）。
4. 2015/1/12 日本語ボランティアセミナー
  - ・会場のキャパを超える参加申し込みがあり、お断りするケースが生じた。参加できなかった方および満杯の会場でご不便をかけた参加者の皆さんにお詫びしたい。
  - ・毎年研修テーマや内容には苦勞しているが、日本語ボランティアのすそ野を広げるために、今後も継続していきたい。

### ◎各教室の活動報告

#### ○ SIR

- ・2015年度のSIR主催研修会は、行政担当者を対象に、多文化共生施策の運営方法や予算管理の方法について実施する予定。

#### ○ 沼津「日本語を語る会」

- ・学習者数は20名強で増減はないが、ボランティア数は増加した。特徴的なのは、若い世代の新規ボランティアが入会したこと。
- ・負担が多い役割（特に部会長）を引き受けることに対するハードルを下げるため、役割分担の均一化を図ってきた経緯があるが、少なくとも部会長の負担を減らすという狙いに対しては、一定の効果があつたと思われる。具体的には部会の司会を持ち回りでやるなどのことをした。今後の試みについてもまた報告したい。

- ・ 運営に関する提案などを進めるに当たっては、プロセスが大事だと感じる。どこまで全員の意見を聞いて決めていくか、どのようなステップを設けるかなど。1回の多数決で済むようなシンプルな事例には対応できる体制をすでに作ってあるが、複雑なテーマに関しては不十分と感じる。
  - ・ 新しい取り組みの試行をする際には、具体的にどのようなサンプルをとるかの想定が出来ているとなおわかりやすく進められると感じる。
- 沼津「親子にほんごひろば」
- ・ 第5地区センターは相変わらず生徒が少なく悩みが深い。今沢会場は生徒の顔ぶれが決まっていて、近隣の人が来ない。
  - ・ 今沢会場は親子2組を含む5,6人がコンスタントに来ている。
  - ・ 2015年度から今沢会場が、今沢地区センターから中今沢自治会館に変更される。
  - ・ 今年から予算決めが2か月早くなったことで、間を空けずに授業が継続できるようになる。
- 熱海
- ・ 学習者5名。(中国人2名、スコットランド人1名、フィリピン人2名)実習生(留学生?)、介護士、在住者。
  - ・ 場所柄、7~12月にかけてはメキシコ人バンドマンが学習しに来ている。
  - ・ 先生4名(元日本語講師2名、元外国人のための相談員経験者1名、元中学英語教師1名。)
  - ・ 授業では、参加者の要望によりJLPTの受験指導をしている。中国人2人はそれぞれN1,N3を、フィリピン人N2を目指して学習している。
  - ・ 先生間には、教え方にギャップがあるようだ。
  - ・ 日本語ボランティアを希望する人のレベルがまちまちで、初心者にとってはベテランの先生方に気後れしてしまい、活動を始めるまでに至らない。
- 日本語話そう会(伊豆の国市)
- ・ 毎週火曜日19:30-21:00まで、韭山時代劇場(駐車場がある駅前の会場)で伊豆の国市国際交流協会が開催する日本語話そう会が、交流会も開催しながら活動をしている。(ニューイヤーパーティ、田植え稲刈り、いちご狩り等)
  - ・ 実習生、ALTなど、ベトナムやインドネシアの人が多く。参加人数にはばらつきがある。特に実習生は建築現場や夜勤の仕事が忙しく、なかなか来られない人が増えている。忙しくなった理由として景気が上向いたこともある。
  - ・ ベトナム人は家族を呼び寄せる人が多い。市教委が許可して子どもが日本の中学校に入ったものの、現場の学校の先生は日本語のわからない生徒に教えるのに苦労している。
  - ・ 警察から、通訳派遣を依頼されることがある。
  - ・ 某企業から、あるいは学校からホームステイ先の斡旋を依頼されることがある。企業から学校に「留学生がいると、日本人生徒にも刺激になるから」と電話が入り、学校が留学生を受け入れている様子。事例として、企業からホームステイ先に毎月3千円が支払われるが、異文化交流ができるとは言え自腹を切っているし、10代の学生を預かる以上は責任も大きい。安易に引き受けるとトラブルの元になるので、そういう依頼には気をつけて欲しい。

○ シルクロ（沼津市、清水町）

- ・ 沼津会場は、代表者 1 名が沼津駅前週 1 回行っている。学習者は主にインドネシア、ベトナムからの技能実習生。
- ・ 清水町会場は、代表者とヘルプ一人が公民館で週 2 回行っている。学習者は主に定住者。（ブラジル、ベトナム、フィリピン、ウクライナ、オーストリアなど）。登録者は 20 人だが、実際に通っているのは 10 人弱。マンツーマンあるいは小グループ形式。
- ・ 清水町会場は先生がタイやベトナムへ行ってしまう、不足している。現在、チラシやヒューマンアカデミーからの紹介で募集をしている。

○ FILS

- ・ 常勤の専門コーディネーターが運営。マンツーマンのマッチング方式。
- ・ 学習者の国籍は多様だが、ベトナム人とインドネシア人が多い。
- ・ 日本語検定のための勉強をしたい生徒が多い（中には N1 を目指している生徒がいる）。
- ・ 学習内容は個別対応で決めている。学校の勉強を教える、日記を書いてもらうなど、それぞれ工夫して教えている。
- ・ 夏休みには子どもを対象に、学習支援をしている。
- ・ 日本語教授法としての文法を知らない先生と、その文法で学習してきた外国人生徒との間に、ギャップが生じることもある。

○ どんぐり（浜松）

- ・ 去年は文化庁委託の事業で「大人のための日本語教室」を開いたが、現在は子ども中心の教室。
- ・ 学習者は子どもが 10 人程度。
- ・ 子どもと一緒に来る母親が日本語を勉強したいと来るようになった。
- ・ ペルー人高校生がときどき加わってくれて、母語を生かして教えようとしてくれている。
- ・ 高校受験を目指す教室をつくるか思案中。対象は外国にルーツを持つ人に限定しないつもり。大人対象の対話型教室も再開したいが、協力者を探している。
- ・ 人材育成の現場に関わることになったが、日本語教師をめざす人でも、地域の外国人のかかえている問題を知らない人が多いと感じる。そこで、日本語教師をめざす若者に「学生時代に外国人の子は周りにいたか？」と聞いたところ、「小学校時代はいたけど、進学するにつれていなくなり、その後も知らない」と返事があった。外国人の子どもは帰国したり進学しない子も多いため、身近にいた「同い年の外国人」の存在は見えなくなってしまうよう。

○ のびっこクラブみしま

- ・ 学校にはない、思う存分母語が話せる場として機能している。
- ・ 学習支援の立場からは、子どもの国籍、年齢、滞在年数、日本語力が異なるため、学習の積み上げがない子どもに対する指導が難しい。（内容理解まで徹底するか、点を取れば良いのか、本人のためにこれで良いのか）
- ・ 子供の日本語支援、学習支援を行っている。来る学習者は固定化してきている。春休み、夏休みにも補習教室を開いている。外国人の児童生徒は塾に行けなかったり、行っても続かなかったりする。
- ・ 三島市は散在型で 44, 5 人 +  $\alpha$  の子供がいるが、一人ずつ救っていくしかない。

- ・今は中学生がメインでスペイン、南米、休み中に台湾の子供が来ている。
- ・週1回1時間ではなかなか思うように進まないが、居場所になっている。
- ・日大生がサポートしてくれているので、子供たちには楽しい場になっている。
- ・代表の石井家の一部屋を開放して16:00~20:00 在宅の時に限り入れ替わり来て勉強したり、おしゃべりしたりしている。
- ・年に3、4回他の団体のイベントに参加している。
- ・三島子育て支援課活動費補助事業に応募して5万円補助金をもらい、はこねの里でデイキャンプを行った。日本人の参加も多く知り合うきっかけ、情報交換の場となった。それをきっかけに子供たちが地域の人とつながることができたのは大きな収穫。

○ ふじの国多文化共生ネット：

- ・文化庁受託事業をこの2年行い、日本語教室などを開いてきたが、立て直しのため3年目は申請せず。
- ・来年度は静岡県、NICE、日大と共同事業を企画している。その一つとして6月6日にぬまづウォークラリー開催予定。シンポジウム開催などを通じて静岡東部のいろいろな団体とつながりができたことが収穫。

○ 富士宮国際交流協会：

- ・日本語教室を火曜日19:30~21:00開催。生徒20人（ALT,日本語学校の生徒など）講師6人。
- ・富士宮市には在住ブラジル人が多く問い合わせはあるが、実際来る人は少ない。
- ・JICEが9月から2月の夜、就労準備研修を開催し、つながりができた。
- ・おしゃべりラウンジを月1回土曜日に駅前で開催している。毎回3~5人、学生やJICE研修生など来たり来なかったりだが、認知され始めた。
- ・地元の高校生がボランティアに入ってくれるようになり、歳の近い者同士交流している。
- ・小中学校へのボランティア派遣は交流協会と教育委員会学校教育課が話し合いをすることで、お互いの棲み分け、ルール作りができてうまくいくようになった。今回担当者が異動することになりこの先心配。
- ・今後横のつながりを持つようにしていきたい。そのためにも東部ネットなどに現場の人に参加して欲しいので、交通費を支給することを考えている。